

教科	水産	科目	水産海洋基礎A	単位数	2 単位
年次	1 年次	学科・コース	食品工学科		
使用教科書		水産海洋基礎（海文堂出版株式会社）			
副教材等					

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産や海洋の各分野における共通の基礎科目として、水産や海洋について様々な角度から学びます。</li> <li>・水産業や海洋関連産業の概要及び将来就職する際の社会的意義や役割を理解しよう。</li> <li>・実践的、体験的な活動を通して、自分なりに課題を発見・考察し、解決に向けて取り組んでみよう。</li> <li>・基礎実習については、水産海洋基礎B（2 単位）で取り扱います。</li> </ul>
---

2 学習評価（評価規準と評価方法）

学習目標	水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を育成することを目指す。		
観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・ノートやワークシートの記述</li> <li>・レポート、観察・実験</li> <li>・定期考査、実技テスト、小テストの結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・ノートやワークシートの記述</li> <li>・レポート、グループ討議・発表</li> <li>・定期考査、小テストの結果</li> <li>・(ポートフォリオ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習状況の観察</li> <li>・ノートやワークシートの記述</li> <li>・レポート、グループ討議・発表</li> <li>・自己評価、相互評価等</li> <li>・(ポートフォリオ)</li> <li>・(インターンシップ日誌)</li> </ul>
<p>学習のまとめ（単元等）ごとに、上に示す観点に基づいて、評価規準を設定し、A（十分満足できる）、B（おおむね満足できる）、C（努力を有する）の3段階で評価します。また、それらの評価を基に学年末に5段階の評価にまとめます。そのために学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

3 年間の学習計画等

学期	単元（題材）	知識・技術	思考判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	第1章 海のあらまし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、交際協調について基礎的な内容を理解している。</li> <li>・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持について基礎的な内容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、交際協調についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。</li> <li>・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、交際協調について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> <li>・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>
	第1節 日本の海、世界の海			
2 学期	第2節 海と食生活・文化・社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋文化、和食文化、水産物に含まれるタンパク質や有効成分が食生活に果たす役割について基礎的な内容を理解している。</li> <li>・海に由来する資源が人間生活に果たす役割や影響についての基礎的な内容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋文化、和食文化、水産物に含まれるタンパク質や有効成分が食生活に果たす役割についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。</li> <li>・海に由来する資源が人間生活に果たす役割や影響についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋文化、和食文化、水産物に含まれるタンパク質や有効成分が食生活に果たす役割について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> <li>・海に由来する資源が人間生活に果たす役割や影響について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</li> </ul>

	第3節 海と環境	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理について基礎的な内容を理解している。	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
2  学  期	第4節 海と生物	生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性について基礎的な内容を理解している。	生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	第2章 水産業と海洋関連産業のあらまし	・船の種類と役割、構造、機関、通信及び操船について必要な知識や技術と関連付けて理解している。	・船の種類と役割、構造、機関、通信及び操船についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	・船の種類と役割、構造、機関、通信及び操船について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	第1節 船と暮らし	・船の歴史や文化、船の安全な運航、海上輸送について必要な知識や技術と関連付けて理解している。	・船の歴史や文化、船の安全な運航、海上輸送についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	・船の歴史や文化、船の安全な運航、海上輸送について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	第2節 とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理	・漁業の沿革と現状、漁業生産の動向と国際的な資源管理体制について必要な知識や技術と関連付けて理解している。 ・水産生物の習性と漁具 ・漁法及び漁業関連機器、増養殖について必要な知識や技術と関連付けて理解している。 ・水産資源の特性、資源の適正管理について必要な知識や技術と関連付けて理解している。	・漁業の沿革と現状、漁業生産の動向と国際的な資源管理体制についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・水産生物の習性と漁具 ・漁法及び漁業関連機器、増養殖についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・水産資源の特性、資源の適正管理についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	・漁業の沿革と現状、漁業生産の動向と国際的な資源管理体制について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・水産生物の習性と漁具 ・漁法及び漁業関連機器、増養殖について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・水産資源の特性、資源の適正管理について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
3  学  期	第3節 水産物の流通と加工	・水産物需給の現状や今後の見通しについて必要な知識や技術と関連付けて理解している。 ・水産物の調理・加工や販売について必要な知識や技術と関連付けて理解している。	・水産物需給の現状や今後の見通しについての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・水産物の調理・加工や販売についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	・水産物需給の現状や今後の見通しについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・水産物の調理・加工や販売について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	第4節 わが国の水産業と海洋関連産業	海洋性レクリエーション、沿岸域の整備・開発・調査、海洋エネルギーなどの資源開発及び海洋関連産業の現状について必要な知識や技術と関連付けて理解している。	海洋性レクリエーション、沿岸域の整備・開発・調査、海洋エネルギーなどの資源開発及び海洋関連産業の現状についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋性レクリエーション、沿岸域の整備・開発・調査、海洋エネルギーなどの資源開発及び海洋関連産業の現状について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

※上記の内容は授業の進度によって変更される場合があります。